

## 環境調査結果のお知らせ

平成21年5月29日  
中央漁業指導所・水産試験場

平成21年5月29日午前9時30分から野見湾の環境調査をしました。  
観測の結果は次のとおりでした。

### 概況

前日の荒天で、湾内の透明度、水温、塩分、溶存酸素濃度などが大きく変化しています。湾内のプランクトン密度は全般に低くなっていますが、有害プランクトンが少数出現しています。

### 溶存酸素

溶存酸素濃度は5.6~7.3mg/lでした。プランクトンが少ないためか各定点の測定値が前回の調査（5月12日、以下同じ）より相当低くなっています（表1・表2）。

### 水温

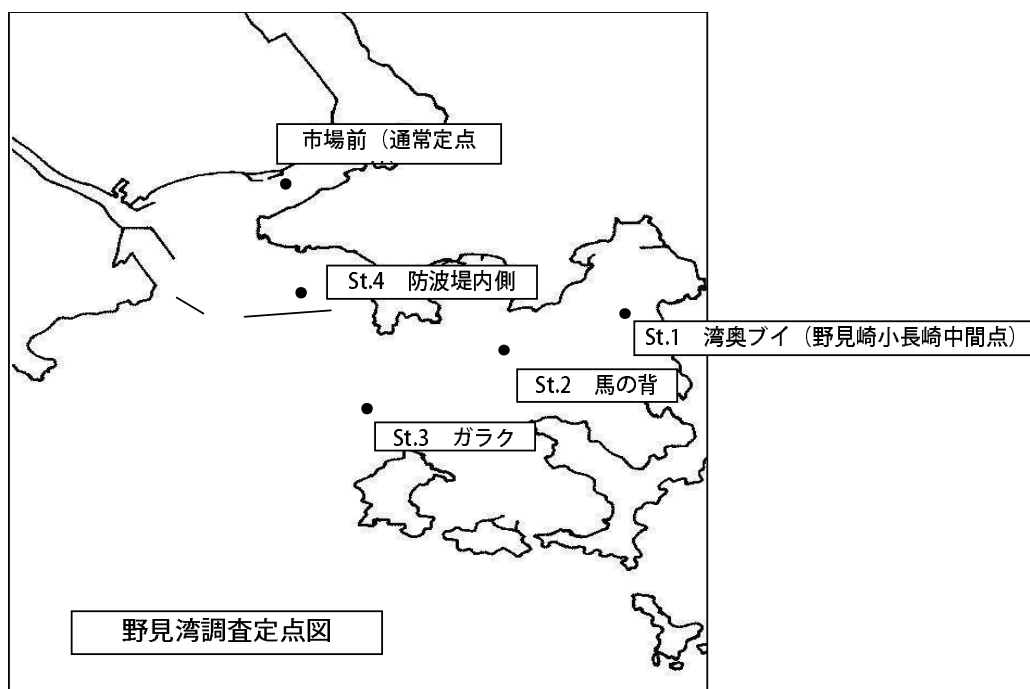
水温は20.1~21.1℃の範囲でした。底層の水温は前回調査より上がっていますが、表層の水温は前日の荒天の影響で下がっています（表3）。

### 塩分

湾内の塩分は33.36~34.24で、表層が若干低いもののほぼ均質な塩分濃度になっています（表4）。

### プランクトン

低密度ですが有害種が出現しています。プランクトン調査の結果は3ページ目に記載しています。



## 環境調査結果表（溶存酸素・水温・塩分）

表1 溶存酸素(mg/l)

平成21年5月29日

調査地点	St.1	St.2	St.3	St.4	湾内平均 (St1~ St3)	前回調査 (H21.5.12)		市場前
	野見崎と小 長崎中間点	馬の背	ガラク2番口	東側津浪防 波堤内側		湾内平均	前回との差 今回-前回	
0 m	7.3	6.9	6.8	6.8	<b>7.0</b>	9.4	▲ 2.4	6.4
2 m	6.7	6.2	6.6	6.8	<b>6.5</b>	10.0	▲ 3.5	6.3
5 m	6.6	6.2	6.4	6.8	<b>6.4</b>	8.2	▲ 1.8	6.3
10m	6.6	6.2	6.4	6.7	<b>6.4</b>	7.4	▲ 1.0	6.5
B-1	6.3	5.6	6.6	6.3	<b>6.2</b>	6.6	▲ 0.4	6.6

表2 溶存酸素(ml/l)

調査地点	St.1	St.2	St.3	St.4	湾内平均 (St1~ St3)	前回調査 (H21.5.12)		市場前
	野見崎と小 長崎中間点	馬の背	ガラク2番口	東側津浪防 波堤内側		湾内平均	前回との差 今回-前回	
0 m	5.2	4.9	4.8	4.8	<b>5.0</b>	6.4	▲ 1.4	4.6
2 m	4.7	4.4	4.7	4.8	<b>4.6</b>	6.4	▲ 1.8	4.5
5 m	4.7	4.4	4.5	4.8	<b>4.5</b>	6.4	▲ 1.9	4.5
10m	4.7	4.4	4.6	4.7	<b>4.5</b>	6.1	▲ 1.5	4.6
B-1	4.5	4.0	4.6	4.4	<b>4.4</b>	4.9	▲ 0.5	4.6

表3 水温 (°C)

調査地点	St.1	St.2	St.3	St.4	湾内平均 (St1~ St3)	前回調査 (H21.5.12)		市場前
	野見崎と小 長崎中間点	馬の背	ガラク2番口	東側津浪防 波堤内側		湾内平均	前回との差 今回-前回	
0 m	21.0	20.9	21.0	21.2	<b>20.9</b>	21.2	▲ 0.3	21.1
2 m	20.9	20.9	20.9	20.8	<b>20.9</b>	20.9	▲ 0.0	21.0
5 m	20.8	20.8	20.8	20.8	<b>20.8</b>	20.2	0.6	21.0
10m	20.8	20.8	20.8	20.8	<b>20.8</b>	19.5	1.2	20.9
B-1	20.7	20.1	20.8	20.7	<b>20.5</b>	18.9	1.7	20.9

表4 塩分(ppt)

調査地点	St.1	St.2	St.3	St.4	湾内平均 (St1~ St3)	前回調査 (H21.5.12)		市場前
	野見崎と小 長崎中間点	馬の背	ガラク2番口	東側津浪防 波堤内側		湾内平均	前回との差 今回-前回	
0 m	33.4	34.1	34.0	34.1	<b>33.8</b>	34.0	▲ 0.2	33.8
2 m	33.7	34.1	34.1	34.0	<b>34.0</b>	34.1	▲ 0.1	34.0
5 m	33.9	34.1	34.1	34.0	<b>34.1</b>	34.1	▲ 0.0	34.0
10m	34.0	34.1	34.2	34.1	<b>34.1</b>	34.1	▲ 0.0	34.2
B-1	34.1	34.2	34.2	34.2	<b>34.2</b>	34.2	▲ 0.0	34.1

表5 水深・透明度 (m)

調査地点	St.1	St.2	St.3	St.4	市場前
水深(m)	18.2	25.3	16.2	17.2	11.4
透明度(m)	8.1	8.3	9.0	7.7	5.1

## 環境調査結果表（プランクトン）

平成21年5月29日

単位 cells/ml

調査地点・水深		コクロディニウム・ ポリクリコイデス	フィブロカプサ・ ジャポニカ	優占種
St.1 湾奥ブイ	0 m	0	0	リゾソレニア、ニッチア 等珪藻類
	2 m	0	1	
	5 m	16	1	
St.2 馬の背	0 m	0	2	リゾソレニア、ニッチア 等珪藻類
	2 m	0	2	
	5 m	0	2	
St.3 ガラク	0 m	0	0	リゾソレニア、ニッチア 等珪藻類
	2 m	0	0	
	5 m	0	1	
St.4 東側津浪防 波堤内側	0 m	0	0	ニッチア、スケルトネー マ等珪藻類
	2 m	0	0	
	5 m	0	2	
定点外 市場前	0 m	0	0	ニッチア、スケルトネー マ等珪藻類
	2 m	0	0	
	5 m	0	0	

## プランクトン

湾奥（St.1）でコクロディニウム・ポリクリコイデスが16cells/ml出現しています。本種は400cells/ml以上で養殖魚に被害が出ることがあります。また、増殖が表層より2～5m層で活発なため、赤潮発生が分かりにくいので注意してください。

フィブロカプサ・ジャポニカは沿岸域で普通に観察される種類で、瀬戸内海などでまれに赤潮状態になり、漁業被害が発生することがあります。

その他の有害種では、ケラチウム属（複数種）が最高8cells/ml出現していますが、特に危険な種類ではありません。

リゾソレニアやニッチア等の珪藻類は基本的に無害種です。

今回出現した有害種にしても出現数は少なく、漁業被害が直ちに心配されるような状態にはなっていませんが、養殖魚の様子とプランクトンの動向には注意するようにしてください。なお、海面の着色や養殖魚の異常を感じたときなどは、良く洗ったペットボトルに海水を汲んで、水産試験場か中央漁業指導所までご連絡ください。